

# 案件進捗のガントチャート化とテキスト分類による 特徴語プロット図の作成

ヒューマンウェア株式会社

SSE02-11 舟生翔一

## 現場における問題点

毎朝行われるチーム会議で進捗共有がメモ帳機能(テキストベース)でなされているが、内容が高度化しすぎて分かりづらい。そして、メンバー同士のコミュニケーションも醸成されず、結果として自己完結型の作業スタイルになり、会社全体としての成長曲線が描けない。

## 手法・ツールの適用による解決

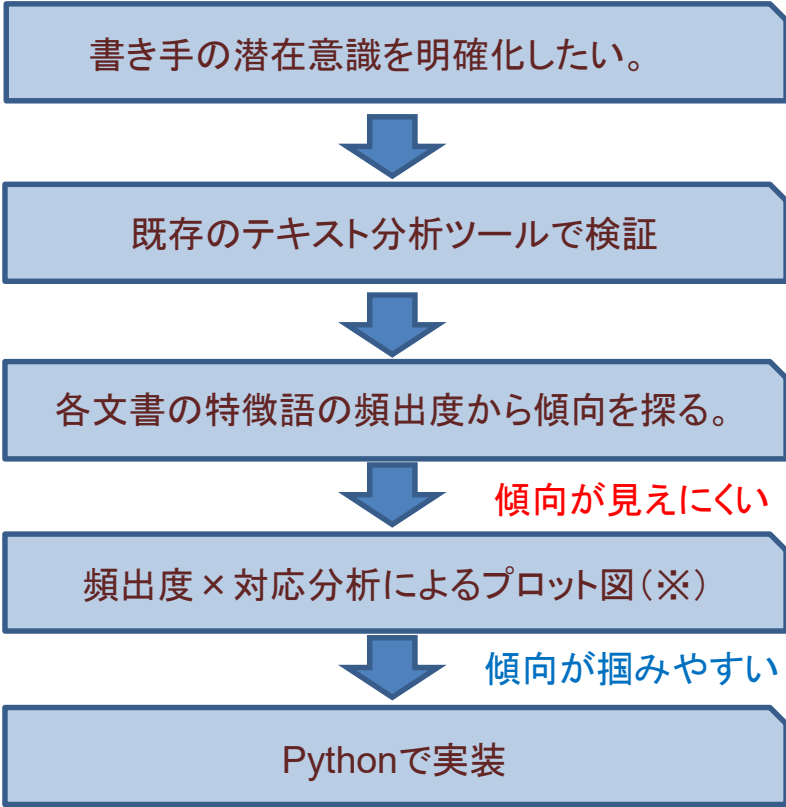
まずは、作業進捗をガントチャートで可視化することで、案件の割り振りを適切に行える。そして、日報をテキスト分析にかけ、頻出単語のプロット表を作成し、個々人の仕事上の問題を明確化する。それにより自己完結型から他者を巻き込んで仕事を行うスタイルに変わり、会社としての成長曲線が描きやすくなる。

※現場では、セキュリティの観点からフリーソフトウェアの利用が禁じられている為、Python環境のみで実施する

### ①ガントチャートによる可視化

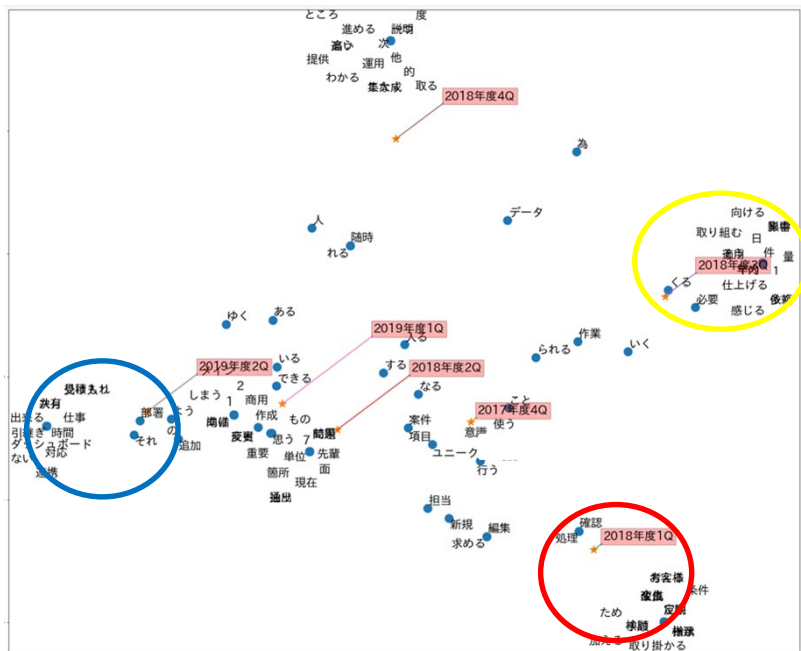
- > まず、リーダーがメンバーに案件を適切に割り振ることができるようになることを目指す。
- > 既存のバージョン管理ツールから「ガントチャート」の重要性を認識。(ガントチャートとは、作業進捗を時系列で追ってゆくもの。)
- > 今回の制作物では、ガントチャートにより現状テキストベースでは把握しきれない「どの担当者が、いつどれだけの案件を任されているか」という事が明確になった。

### ②対応分析を用いた、特徴語プロット図の作成



傾向が見えにくい!

傾向が掴みやすい!



(※)いくつか分類した各文書をベースに、特徴語の頻出度を数値化し、度合に偏りがあれば、図に分類のラベルが散らばって表示される。また、分類に寄与する特徴語があれば、ラベルの近くにプロットされる。

←図は、自社の月報に対し「各Quarter」で分類した場合のプロット図(プライバシーの為、一部改変)